

私は公民館の役割とは、安全で安心して暮らせる町づくり、自分の住んでいる所を良く知ってもらって、誇りと愛着を持ってもらう、人と人が出会う事が出来るキッカケづくりだと思っております。

その一環として、2005年から安全マップづくりを始めました。特に2007年度からは新一年生向けのマップを制作し、親子で活用していただいております。小学生、中学生、P T A、先生や地域の人たちが一体となるマップ作りのおかげで、今迄気づかなかつた子ども目線での危険な所がたくさんあることに気づかされました。

大人の責任として、“地元の事は地元で”的合言葉のもと、すばやく改善し、この活動を通して、住民の方々の防犯・防災意識が高まり、久米のシンボルでもある「みまもり隊」の黄色い帽子をかぶる人が増えました。

今後もマップづくりを継続し、少しでも住みよい町づくりが出来ればと思っています。



松山市立久米公民館長  
安永 耕造

2004年、私が提案したときには、安全マップの取り組みはあまり知られていませんでした。それでも久米地区の関係者の皆さまは、その必要性を理解し、翌年8月には4校で実施することができました。その取り組みが今も継続されていることは素晴らしいことです。

久米地区の安全マップでは、「総合性」と「実現性」が重視されています。「総合性」とは、防犯だけでなく、交通安全、バリアフリーの要改善箇所、さらには素敵な箇所も含めて幅広い視点から地域を点検することです。「実現性」とは、発見した課題に対する解決策を考え、地域力によって実行することです。これらの特徴から、久米地区の安全・安心まちづくりは全国的に先進事例として知られるようになりました。

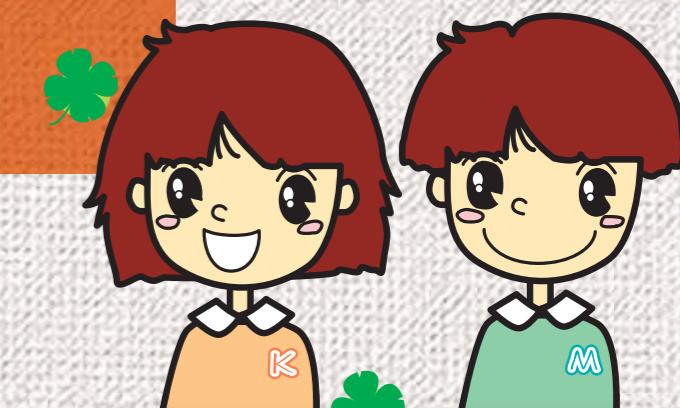
子どもたちの安全・安心と、地区の更なる発展に向けて、引き続き応援させていただきたいと思います。



NPO 法人しょうまち  
理事長  
樋野 公宏

作成：特定非営利活動法人しょうまち  
協力：松山市立久米公民館  
編集：株式会社プレイスメイキング研究所  
2011年5月

# 松山市久米地区 安全・安心 まちづくりの あゆみ



Kume Elementary School



Kitakume Elementary School



Fukuon Elementary School



Kubota Elementary School

# 久米地区における子どもを核にした『安全・安心まちづくり』のあゆみ

見出しの色分け  
●…里山関連の活動   ●…安全・安心関連の活動   ●…大城地区との交流事業

2003 年度  
(H 15)

**里山づくりが始まる**

4月 ● 公民館長に安永耕造氏が就任する。

11月 ● **里山づくり**

放置されたみかん山を、子どもたちが自然体験や農業体験、ふれあい体験をする「里山づくり」が始まる（11/13久米里山づくり委員会設置、12/3説明会）。



放置されたみかん山をみんなで里山に



気になる場所を  
絵で表そう  
(窪田小)

8月

● **安全マップづくり①**

まちづくりに繋げることを目的に、初めての安全マップづくりを実施した（8/7、実施校：久米、北久米、福音、窪田）。8/25にはたぢばな小でも実施した。NPOしようまちの提案を受けて、久米地区青少年健全育成連絡会が実施したもので、わくチャレの愛大生も協力した。配布すぐに改善された例として、南久米公園の木の伐採、久米小北（鷹子町）への防犯灯の設置などが挙げられる。

マップの情報共有のため、作成されたマップの写真を掲載した冊子3000部を作成・配付した。地区内の有志の寄付がこの費用に充てられた。また、東京大学の協力により、WebGIS「カキコまっぷ」を用いて安全マップの情報を公開した。



まちあるき中に突撃インタビュー  
(北久米小)



作成された安全マップ（福音小）



ガリバーマップづくり（久米小）

2004 年度  
(H 16)

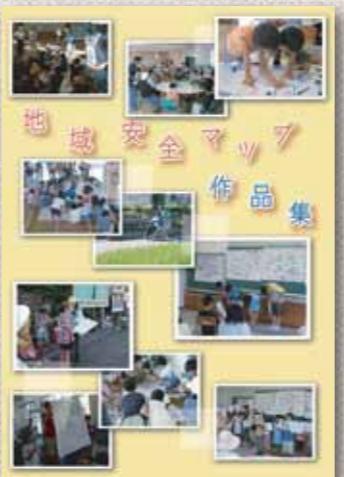
**「地域の厚みづくり」  
への挑戦が始まる**

4月 ● 公民館が公設民営から公設公営になる。

8月 ● 久米中美術部が、里山の貯水タンクの壁画を制作する。

2月 ● **第3回青少年健全育成連絡会**  
NPOしようまちから来年度の安全マップづくりが提案される。

3月 ● 子どもと大人で、里山の中央広場から見晴台までの階段横に植樹する。



有志の寄付によりマップの写真を冊子に



作成された安全マップ（福音小）

● **里山づくりに対する助成金の受給**

里山づくり（森の響育学校）に対して愛媛新聞「愛・ウェーブ」助成金を受給した。また、平成17年度愛媛県森林環境保全基金公募事業の補助金も受給した（その後18、20、22年度も受給）。

● **里山キャンプ（試行）**

ボーイスカウト参加による里山キャンプを試行した。なお、H17年度から、窪田小2年生の1学期の遠足の行き先が里山になった。

2005 年度  
(H 17)

**安全マップづくりが  
始まる**

4月 ● 公民館運営審議会委員長に仙波英徳氏が就任する。「地域の厚みづくり」への挑戦が始まる。

・安全マップの事前調査として、4小学校の全保護者を対象に、犯罪、交通事故、転落・転倒等の危険箇所を尋ねるアンケートを実施する（1696人回答）。

5月 ● **わくわくチャレンジサタデー（わくチャレ）**

子どもの居場所づくりの一環として、愛媛大学教育学部の学生により、隔週の土曜日、久米小5、6年生を対象に「こころづくり」、「からだづくり」を目的とした実践が始まる。



11月

● **第2回青少年健全育成連絡会**

各校の子どもの代表が安全マップづくりの活動報告を行った。子どもたちは地域の将来像を手紙にまとめ、参加した大人たちはそれを各地域に持ち帰り、今後の防犯まちづくりに関して議論することとされた。

## 2006 年度 (H 18)

### 里山キャンプが始まる



6月 **・福音小では、昨年のノウハウを用いてPTAと小学6年生でマップづくりを行った(6月)。他校ではPTAが安全マップ、まもるくんの家の地図を作成した。**



#### ●里山キャンプ①

昨年度の試行を受け、久米小の参加による里山キャンプを実施した。なお今年度より、五郎兵衛谷古墳群にちなみ、卒業制作のハニワを里山に設置し始めた。



卒業制作のハニワ設置始まる



第1回里山キャンプ



#### ●全国都市再生モデル調査「子どもが元気なまちは、みんなが元気」事業

NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構(H18.10にNPO法人認証)が実施主体。久米地区のスーパー、温泉施設等に「カラーデジタル電子ペーパー」を設置し各種の地域情報を発信した。設置後のアンケート調査を通じて、地域の安全・安心情報のニーズの高さを確認した。



#### ●第3回久米地区青少年健全育成連絡会

3月のマップづくりに向け、国士館大学・寺内義典准教授(地区交通)によるレクチャーが行われた(1/29)。2月には、小学生がまちあるきの視点を身に付けるため、寺内准教授、NPOしようまち樋野公宏理事長(防犯まちづくり)によるレクチャーが行われた。



#### ●安全マップづくり②

「つたえる」をキーワードにして、小学校時代にマップづくりを経験した中学生をリーダーにまちあるきを行った(3/27、モデル校として久米小のみ実施)。事前のアンケート(対象: 小4~小6、中2の児童・生徒計222名、地域の大人22名)で挙げられた、まちの素敵なところ、交通安全・防犯の視点から危険を感じるところを中心にチェックした。まちあるき終了後には、公民館で座談会「小学校横の通学路を安全に」を開催し、大人が久米小前の道路の交通安全問題について集中討議を行った。

安全マップの情報をもとに、地区別のA3版のマップを作成し、久米小の新入学生に配布した。まちを好きになってもらうことを重視し、「気をつけたいところ」だけでなく「残したいよいところ」も掲載した。

## 2007 年度 (H 19)

### 学社連携協力促進協議会設置



#### ●久米地区学社連携協力促進協議会の設置

久米地区青少年健全育成連絡会と協働で事業を実施する「学社連携協力促進協議会」を久米公民館に設置した。学校ごとに地域コーディネーターを配置し、学校と地域のニーズのマッチングを始めた。コーディネーターは、学校と地域の両方に理解がある町内会長とPTA経験者を中心を選任した(以降、各校2名を基本とする)。

この協議会の設置により、従来、各校から個別の団体・個人に依頼していた事案が、コーディネーター経由で公民館に集約されることになった。例えば、中学校の「仕事語り部講座(職業人による中一生向けの講座)」の人選や「職場体験学習」の事業所選定を支援し、できるだけ卒業生、地区内の方が選ばれるようになった。この他、古代米づくり、里山わくわくキャンプ(H17年度~)、ハニワづくり(H18年度~)などが協力事例に挙げられる。

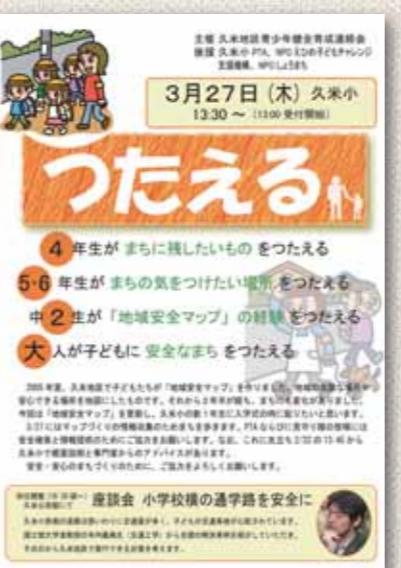


中学生の職場体験(久米中)



#### ●里山キャンプ②

4小学校の参加による里山キャンプを実施した。



「つたえる」がマップづくりのテーマに



はじめて新入学生に配布したマップ



まちあるきでは中学生がリーダーに



交通安全問題を考える座談会

## 2008 年度 (H 20)

### 学校支援地域本部 事業開始

6月  
7月

- 北久米小PTAが「北久米小安全安心マップ」を作成した。
- 久米地区から波及し、荏原地区でもマップづくりが行われた(7/26、筑波大学協力)。

10月

#### ●久米地区学校支援地域本部事業

「地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図るために」(文部科学省)の事業。10/13にスタートアップシンポジウムが行われた(～H22年度末)。

2月

#### ●沖縄県北中城村大城地区との交流事業①②

久米地区3名が大城地区を訪問し、ハニワ1体を寄贈した(国指定重要文化財「中村家住宅」駐車場に設置)。また、大城地区の外間裕氏が久米地区の安全マップづくり(下記)を視察し、面シーサー2体が寄贈された(久米小学校に展示)。

●安全マップづくり③

筑波大学の協力により3小学校でマップづくりを実施した(2/28、実施校:久米、福音、窪田)。

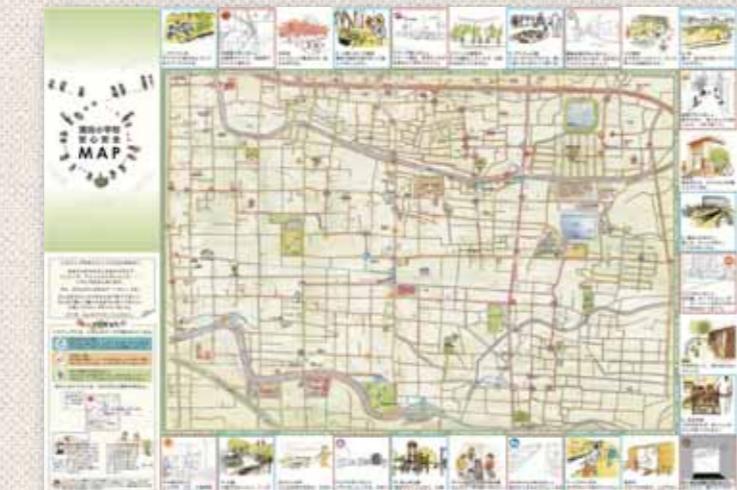


大城地区に設置されたハニワと外間氏

3月

#### ●久米学校支援地域本部報告会

まちあるきで発見した主要課題を各校のコーディネーターが発表し、久米小学校前道路の交通安全と、福音公園の防犯の2点が久米地区の重点課題とされた。また、筑波大学・渡和由研究室作成による新入学生用マップのお披露目も行われた(3/12)。



新入学生に配布したイラストマップ

4月

#### ●久米地区見守り隊の結成

平成13年度に各学校で結成されていた見守り隊を地域全体の組織に一元化した。マップづくりと合わせて、見守り活動の効率化と、校区境界など見守り活動の欠落箇所の発見が出来るようになった。



見守り隊の帽子

6月

#### ●「福音公園を考える会」設立

3月の報告会を受け、町内会長、子ども会、公民館、福音小学校、PTA等が参加する「福音公園を考える会」が設立された。



身近な公園調査の様子

7月

#### ●安全・安心まちづくりのための調査を実施

独立行政法人建築研究所の提案を受け、3月の報告会で重点化された地域課題解決に向けた調査を実施した。

- 車の通り抜け調査: 久米小学校周辺で、登校・下校の時間帯の通過交通の割合、速度の調査を実施した(久米小の先生・PTA、防犯ボランティア、専門家が協力)。
- 身近な公園調査: 福音小学校区の公園を対象に、保護者の公園に対する意識調査、児童・保護者参加の現地での防犯診断、対応策を話し合うワークショップを実施した(福音小の先生、防犯ボランティア、専門家が協力)。

#### ●沖縄県北中城村大城地区との交流事業③

久米地区9名が大城自治会主催の「ムーンライトコンサート」を観察した。

9月

#### ●ファシリテーター養成講座

学校支援地域本部事業として連続講座を開催した。第1回「ファシリテーターとは」(9/27)、第2回「模擬安全マップづくり」(10/12)、第3回「安全マップの振り返りと活用」(2/20)。対象は各校のコーディネーター、PTA、地域組織の役員、先生などで、マップづくりを地域の人材だけで実施できるようにすることを目的とした。

10月

#### ●第1回通学合宿

愛媛県ヤングボランティアセンターの高校生からの提案を受け、公民館で久米小学校四年生～六年生の通学合宿を実施した(県主催)。高校生の企画を地域住民、学校が理解・支援し、小学生の異年齢宿泊体験を実践することを目的とした。

2月

#### ●安全マップづくり④ (2/6)

H23年度からは地域の人材だけで実施できるよう、プログラムを再構成した(実施校:久米、福音、窪田)。沖縄県の関係者3名が観察した。



第1回通学合宿の様子



協力して作成した安全マップ

3月

#### ●久米学校支援地域本部事業報告会 (2/27)

7月に実施した「車の通り抜け調査」、「身近な公園調査」の報告がなされた。福音公園を松山南警察署の白バイパトロールのルートにするなどの対策が講じられた。



中村家住宅の前で記念撮影

## 2009 年度 (H 21)

### 大城地区との交流が 本格化



4月

#### ●久米地区見守り隊の結成

平成13年度に各学校で結成されていた見守り隊を地域全体の組織に一元化した。マップづくりと合わせて、見守り活動の効率化と、校区境界など見守り活動の欠落箇所の発見が出来るようになった。



見守り隊の帽子

6月

#### ●「福音公園を考える会」設立

3月の報告会を受け、町内会長、子ども会、公民館、福音小学校、PTA等が参加する「福音公園を考える会」が設立された。

- 「愛媛県版協働化テスト」事業として、NPO法人えひめ子どもチャレンジ支援機構が提案した「ヤングボランティア支援事業」が採択され(担当は県教育委員会生涯学習課)、ヤンボラセンターの「運営サポート委員会」を設置した。22年5月には県内全高校に対しボランティア活動に関するアンケートを実施した。

# 2010年度 (H 22)

## 福音公園にパネル設置



福音公園にパネル設置

5月

### ●公民館海援隊プロジェクト参加

「地域の課題解決支援を積極的に行う」全国の公民館により結成され、「各地域の課題やその解決支援に向けた取組について、情報を共有し社会的ネットワークの構築を図る」(文部科学省)プロジェクトに参加した。

6月

### ●第2回通学合宿

H22年度から公民館主催となり、中学生のジュニアリーダーと愛生が協力して実施した(6/17)。

### ●ファシリテーター養成講座

昨年度に続き、学校支援地域本部事業として実施した。第1回「近文小学校のマップづくりに学ぶ」(6月)、第2回「中級ファシリテーター講座ー「聴き上手」になるー」(7/4)、第3回「中級ファシリテーター講座ー「伝えることの難しさ」と「ファシリテーションのプロセス」ー」(8/8)。

6月の講座を受け、旭川市立近文小学校と同様にGIS(地理情報システム)を見守り活動に活用することを検討し始める。

7月

### ●夏休みラジオ体操の復活

久米小をモデル校として、町内会・高齢クラブを呼び込み、子どもたちの体力づくりと生活習慣の改善に、お盆休み以外は全日程開催とした。



来住磨寺まつりで沖縄ブースを出店

8月

### ●沖縄県北中城村大城地区との交流事業⑥⑦

大城地区的「子ども親善大使」3人が松山市を訪れ、来住磨寺祭りで出店などの交流活動を行った(8/20-22)。また、久米地区の「子ども親善大使」4人が沖縄県北中城村を訪れ、花咲翁会の地域美化活動に参加するなどの交流活動を行った(8/27-30)。

9月

### ●第2回久米地区青少年健全育成連絡会

久米小前の車の通り抜け対策として、「私は通学路をゆっくり走ります!」と書かれた自動車貼付用のマグネットを200枚配付した。



配布したマグネット

10月

### ●安全マップづくり⑤

5年ぶりに4小学校揃って安全マップづくりが実施された。

### ●里山づくりに対する助成金の受給

久米里山づくり委員会が行う、里山づくり事業(森の響育学校)に対して伊予銀行環境基金「エバーグリーン」から助成される。



福音公園にパネル設置

12月

### ●福音公園ワークショップ

ヤンボラセンター事業として、福音公園の安全について検討する高校生ボランティアの会(福音公園ワークショップ企画会議)が発足した。12月中の2度のワークショップを経て、絵を描けるパネルを公園内の柱(橋脚)に設置し、アートを施すことでみまもり量や住民の関心を高める取り組みを「福音公園を考える会」に提案した(1/27)。

3月

### ●福音公園ワークショップ

2月以降のワークショップを経て、高校生たちが考えた絵柄と児童たちの手形600枚を並べたアートパネルが福音公園に設置された。東日本大震災の被災者への応援メッセージを寄せ書きしたパネルも合わせて設置された(3/26)。

## 参考文献(報告書等)

- 地域安全対策研究会「安全・安心の手引き 地域防犯の理論と実践」、ぎょうせい、2007年  
：子どもの教育だけでなく、その後の継続的な改善活動を重視する久米地区的安全マップが「通学路の防犯」の章で紹介されています。
- 国土交通省「安心して暮らせるまちにするために~地域防犯活動からはじめまちづくり~」、2008年  
：安全マップづくりについて、既存地域連携組織を中心とした体制、NPOとの連携、中学生がリーダーとなる好循環が紹介されています。
- 国立教育政策研究所・社会教育実践研究センター「学校支援ボランティア活動の推進方策に関する調査研究報告書」、2009年  
：「学校の応援団」としての学社連携協力推進協議会の支援によって、児童、教員も里山づくりなどに参加したことが紹介されています。
- 同「平成20年度社会教育情報番組 社研の窓」  
<http://www.nier.go.jp/jissen/el-Net/H20/index.htm>  
：学校支援ボランティアの先進事例として、地域住民が主体的に参加し、地域の教育力の向上を図る久米地区的取り組みがビデオで紹介されています。
- 警視庁「万引きに関する調査研究報告書」、2009年  
：公民館が中心となって地域ぐるみで中学生の職場体験学習を実施した結果、少年非行が著しく減少した成功事例として紹介されています。
- 文部科学省「公民館 Community Learning Centers (CLC) of Japan」  
：中学生の職場体験のために、学社連携協力推進協議会が校区内の事業所に協力を求め、受け入れ先を探す方式が紹介されています。

## 参考文献(雑誌論文等)

- 横野公宏「WebGISを活用した地域安全マップの取り組みと展望」、季刊まちづくり、第6号、学芸出版社、2005年  
：初年度の安全マップづくりについて、東京大学の協力により導入したWebGIS「カキコまっぷ」の活用の展望が書かれています。
- 横野公宏「松山市久米地区における地域安全マップづくり報告」、新都市59-10、(財)都市計画協会、2005年  
：久米地区で初めて行った安全マップづくりについて、取り組みの目的、プロセス、実施概要が書かれています。
- 横野公宏「地域安全マップから防犯まちづくりへ 一板橋区及び松山市の3地区6小学校区での実践を通してー」、「住まい・まち学習」実践報告・論文集8、2007年  
：久米地区的4小学校に加え、東京都板橋区の2地区での経験を踏まえ、安全マップづくりを防犯まちづくりに発展させるための要件を整理しています。
- 横野公宏「松山市久米地区における「統」地域安全マップづくり報告」、新都市62-7、(財)都市計画協会、2008年  
：「つたえる」をキーワードに実施した2007年度の安全マップづくり、座談会、新入学生への配布の取り組みが紹介されています。
- 横野公宏「安全マップを軸とした継続的な安全・安心まちづくり-松山市久米地区の事例報告」、都市住宅学63、都市住宅学会、2008年  
：新入学生に配布したマップについて、まちづくり活動としての評価や不安感を反映して、「今後も定期的に配布して欲しい」という保護者が大半だったと書かれています。
- 横野公宏・白松賢・仙波英徳・新垣正良「安全マップづくりを通じた地域間交流報告 愛媛県松山市久米地区と沖縄県北中城村大城地区との交流事業」新都市64-7、(財)都市計画協会、2010年  
：初めての大城地区への「子ども親善大使」派遣の意義について、都市工学、教育学の視点、両地区的視点から述べられています。





## 各校の地域コーディネーターからひとこと

公民館から各校に配置された地域コーディネーターの皆さんは、学校と地域とを結びつける仲人（なこうど）の役割を担っています。学校と地域のニーズ調整を行なながら各事業のプロデュースを行っています。

また、専門家による「ファシリテーター養成講座」を受講してスキルアップを図り、毎年の安全マップづくりでも運営役として活躍しています。

### 安全マップづくりとまちづくり

このマップを手にとてくれたあなたへ  
あなたのまちはどんなまちですか?  
いいところ、ちょっとよくないところ...  
いろいろあるとおもいます。  
でも、それもぜんぶまちの「こせい」です。  
そんなまちのこせいをみんなで育ててほしい、  
みんなが楽しく暮らせるまちに育ってほしい。  
と思いこのマップをつくりました。  
どうぞ、みんなでつかってください。

これは、2008年度制作の安全マップに記載している筑波大学からのメッセージである。安全マップは地域の危険個所・ネガティブ情報の指摘に主眼を置いているものが多いが、久米地区ではこのメッセージのように、当初から地域の素敵な処・ポジティブ情報発見にも力を注いできた。まちづくりと安全マップづくりには、共通する項目が3つある。1つ目は未来を拓く子どもの目線を入れる事。NPOしようまちの提案もあり、安全マップづくりでは子ども目線を大切にしている。2つ目は出来るだけ多世代の関わりあいの中で実践する事。防犯に対する関心や理解の高さもアート展で発見した課題が目に見える形で解決され、それが地域のネットワークにつながり、次の課題解決につながるという好循環が生まれている。また、マップづくりを毎年継続したことにより、子どもたちにも地域社会が見え始める。中学校では問題行動が激減するなど、地域教育力にも想定外の好影響が見られた。地域の厚みづくりに寄与する実践となつた。



Senba Hidenori  
久米中学校担当コーディネーター  
久米公民館運営審議会委員長

仙波 英徳

地域のことは地域で先生達に少しでも樂をさせてあげたいとの5年間でした。当初は先生達の温度差はあったが時間とともに理解度は上がり、この活動の成果はでたと喜んでいますが互いの信頼がなければできぬ仕事でもありました。

将来は特定のコーディネーターがいなくとも地域という海に学校が孤立することのないよう、学校に地域の方々が常に常駐出来る場所づくりを考えています。

Nakasuka Susumi  
久米小学校担当コーディネーター  
中須賀 真直

PTAとして危険個所をチェックし手書きの地図を配布していました。この5年間しようと子どもたちと楽しく活動することができました。おかげで、すてきな写真やマークでわかりやすいマップができあがりました。新一年生にも満足しています。ぜひ今後も活用していただきたいと思います。



Inoue Mayumi  
久米小学校担当コーディネーター  
井上 真弓美

児童の安全を守るために久米地区の安全・安心マップ作りに参加させて頂き、逆に地域を見直す機会がありました。

今後も子どもたちが楽しい学校生活が送れるよう、色々なかたちでお手伝いの出来る活動を続けて行きたいと思います。

Toyoyama Chizuru  
北久米小学校担当コーディネーター  
豊山 千鶴

コーディネーターになって1年になりますが、多くの地域の方と知り合う事が出来ました。中でも安心安全マップ作りが1番印象に残っています。新一年生のために地域が1つになって作り上げたマップを見て感動しました。これからも少しでも地域の役に立てる様に一生懸命がんばります。



Tanaka Miho  
北久米小学校担当コーディネーター  
田中 美穂

子どもたちが安全で安心して遊べる場所づくりの為に「おばちゃんができる事」を精一杯させて頂きました。

2011年3月26日に、みんなの力で暗くて恐い公園がアート展でバツと明るくなりました!

これからも笑顔があふれるまちづくりに一歩ずつ頑張ります。

Takemoto Akemi  
福音小学校担当コーディネーター  
竹本 朱美

子どもたちの安全・安心のために「まちあるき」をして「安全マップ」づくりすることによって、地域の繋がりを感じてまちづくりへの意識が高まつていったように思います。

子どもたちと一緒に活動できたことに感謝し、今後の「まちづくり」へと繋がっていくことを願っています。



Terakawa Mariko  
福音小学校担当コーディネーター  
寺川 真理子